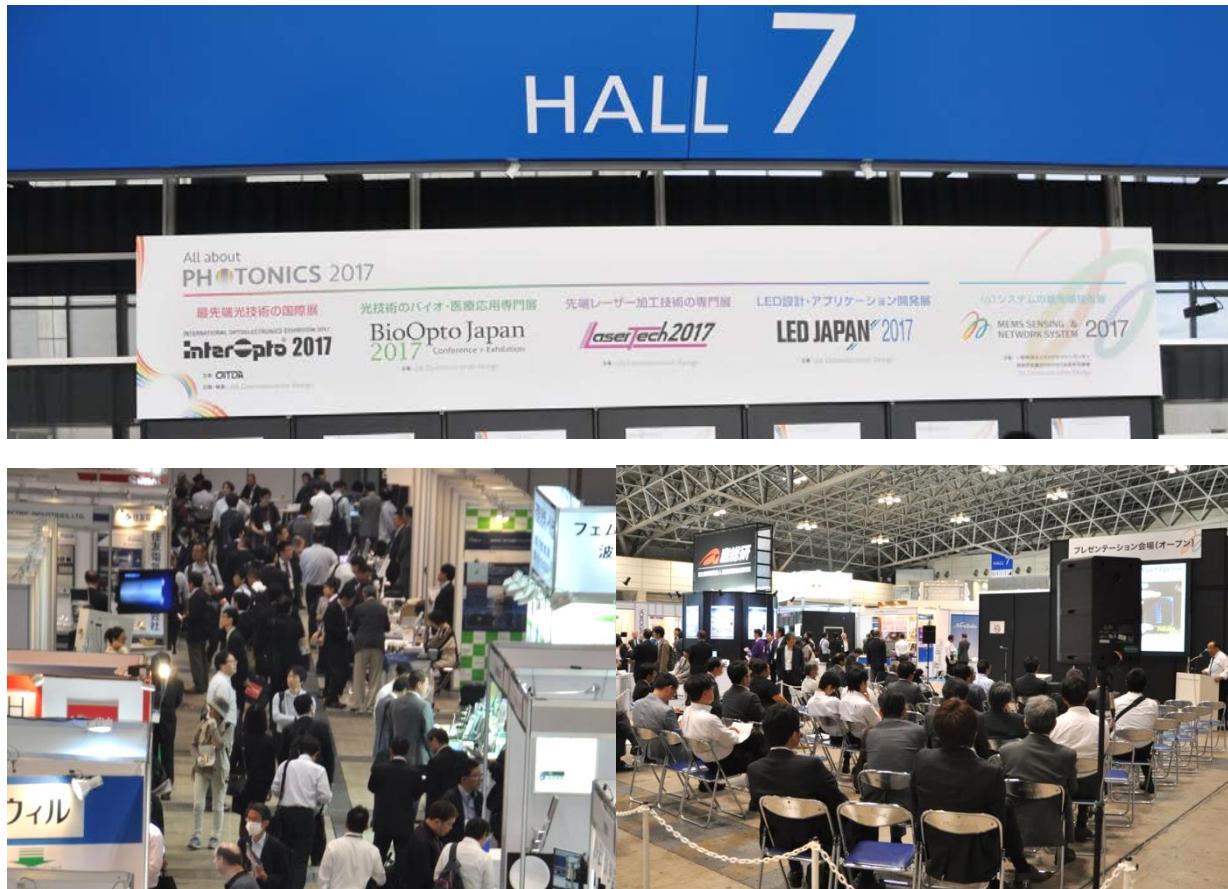


InterOpto2017 報告



最先端光技術の国際展示会である、InterOpto2017を 10月4日（水）～10月6日（金）の3日間、幕張メッセにて開催した。

昨年同様、「LED JAPAN 2017」「BioOpto Japan 2017」「LaserTech 2017」の光関連技術3展示会と「MEMS センシング&ネットワークシステム展 2017」と同時開催したことに加え、今回は CEATEC JAPAN 2017 と同時開催（CEATECは10/3～10/6の4日間）することにより、デバイスコンポーネントから IoT、AI、車といった注目のアプリケーションに至るまでの最新技術と製品が一堂に会する展示会となった。これにより、来場者の情報収集の効率化、有効化はもとより、出展者にとってのコラボレーションの機会も飛躍的に増大することとなった。

InterOpto2017は当協会が主催し、株式会社 JTB コミュニケーションデザインが企画・推進、経済産業省ほか多数の団体の後援・協賛を得て開催した。（後援・協賛をいただいた団体を、文末に掲載）

出展分野は、レーザ／光源、光素子／部品、材料、光機器／装置から光産業関連のサービス／ソフトウェアまで広範囲にわたり、出展品目を通して光関連材料から光応用システムまでの幅広い技術が展示された。

InterOpto 単独での開催規模としては、国内外の光関連メーカー、商社など 86 社、106 小間の出展があった。5 展示会合計では 269 社、292 小間の出展があった。開催期間 3 日間の登録来場者数（ホール 7 全体）は 4,619 名と、昨年の 7,718 名から大きく落ち込んだように見えるものの、相互入場を可能とした CEATEC 側から

多くの入場者があったことで、展示ホールは昨年の数倍もの来場者で溢れ、非常に活気のある展示会となつた。

また展示ホールでは、恒例の「注目される光技術・特別展示ゾーン」を設置し、光技術動向調査委員会の各分科会から推薦を受けた企業8社が当協会からの出展支援を受けて技術・商品を展示するとともに、「注目される光技術セミナー」での講演を実施した。一方、当協会ブースでは、光産業・技術の概要を写真・パネルにて展示、特に光産業・技術に関する調査研究に関しては、各種調査報告書の展示、技術情報レポート等の無料配布など、当協会の活動の紹介、光産業および光技術の最新情報の提供など広報活動を行つた。

一方、国際会議棟3階303の会場では10月5日に、東京工業大学の小山二三夫氏による『面発光レーザ集積フォトニクスの最新動向と応用』と題した特別講演と光技術7分野の光技術動向セミナーを、10月6日には、ベッコフォートメーション株式会社の川野俊充氏による『インダストリー4.0 最前線：Industrial IoTの導入とビジネスモデル』と題した特別講演と、光産業全体および7分野の光産業動向セミナーを開催した。



『面発光レーザ集積フォトニクスの
最新動向と応用』

東京工業大学 科学技術創成研究院
未来産業技術研究所 所長／教授 小山二三夫氏



『インダストリー4.0 最前線：Industrial IoT の
導入とビジネスモデル』

ベッコフォートメーション株式会社
代表取締役社長 川野俊充氏

なお、来年度のInterOpto2018は2018年10月17日（水）～19日（金）の3日間、今年と同じく千葉県の幕張メッセにてCEATEC JAPAN 2018との同時開催を予定しており、最新光技術の応用可能性をより幅広く訴求できる場となるよう、開催準備を進めていくことにしている。

後援・協賛をいただいた団体は次の通り。

後援（6団体）： 経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構、公益財団法人日本科学技術振興財団、一般財団法人対日貿易投資交流促進協会、千葉県、千葉市（順不同）

協賛（11団体）： 一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人日本電線工業会、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人レーザ加工学会、レーザ協会、レーザー輸入振興協会（順不同）